

## 雨に親しむ 大野町保育園（石川県金沢市）

（2歳児）

### ◎雨こんことお散歩

あめあめ  
ぴちゃぴちゃー♪

梅雨の季節、雨水の流れる溝をのぞき込んでいる子がいたので、「これ雨こんこやよ」と伝え、皆不思議そうに「雨こんこ？」と溝に手を入れて「冷たい！」と言う。雨水が下に流れていく様子が面白く、一人の子が溝の中に入ると、「僕も入！」と他の子も続いて一列になって歩き出した。足を高く上げて雨水のはねる音の面白さやピチャピチャと水の鳴る音にひかれ、「あめこんこ ぴちゃぴちゃー」と歌い出し、ひとしきりみんなで雨と遊んでいた。



溝に保育士が葉っぱを流すと、「葉っぱが流れて行く！」と葉っぱに負けないように子どもたちは走り出した。子どもたちも近くにある桜や笹など色々な葉を溝に入れてみる。うまく流れていくものもあれば、途中で沈んだり止まったりするものもあった。色々な葉っぱを試すうちに、笹の葉が一番流れやすいことに気付いたようで、みんなで取りに行き繰り返し流してはその様子を楽しむ姿が見られた。＜言葉ではない発見ができたようで嬉しく、次の機会は笹舟作りを教えて再度チャレンジできるようにしたい＞

ひとしきり溝で遊んだ後、近くにある水たまりを見つけて走り出す。最初はそーっと足を入れているが、一人がバチャバチャと水をはねさせるとみんなも一緒になって足踏みをしたり飛び跳ねたり、水が顔にかかる感触に大声で笑いながら、「あめこんこバチャバチャー」。さらに大きく足を動かしたり跳んだりして、子どもたち自ら新しい場での遊びの創造ができたようである。

小雨の時は、「ねんねしたらお空よーく見えるよ」と言うと、芝生の上の子どもたちも寝転がる。顔に雨がかかり「冷たい！」と目をつぶる子もいたが、一人の子が、「雨こんこ食べた！おいしい！」と言うのでみんなも口を開けて、「おいしい！」「おいしくなーい」「冷たい」と言いながら、雨の感触を味わっていた。

木のそばで遊んでいる子どもたちに枝を揺らして雨粒を落とすと、「冷たーい！」と逃げていくが、すぐ戻ってきて「もう一回して」と言ってくる。子どもたち同士で「雨こんこだぞー」「キャー！」と鬼ごっこのように何度も繰り返し楽しんでいた。

つめたーい！



### ◎雨こんことトロの森の生き物たち

雨の森に散歩に行くと、前日にはほとんどいなかったカタツムリが沢山いた。「どうして今日はカタツムリさんいっぱいいるのかなあ？」と聞いてみると、「雨降ってきたし、お出掛けしたくなかったんじゃない？」と答える。それぞれカタツムリを手のひらにのせ歩く感触に、「ぬるぬるする」とくすぐったそうにしている。

カタツムリって  
ぬるぬるする

途中に「あっ キラキラあった！」と子どもが指を指すのでみんなで見ると、クモの巣についた雨粒が光って見えていた。普段は触ろうとしないクモの巣に手を伸ばしてそーっと雨粒に触り、「お手々にキラキラ付いた！」と見つけた雨粒を嬉しそうに見せてくれた。「きれいね」と言って保育士も雨粒に触れ子どもの感動に共感した。今度は巣をつついて雨粒を落としてみせると、子どもたちは「キラキラ落ちた！きれい！」と言い、その美しさを感じていたようだった。



## ◎雨こんことおままごと

雨上がりの日、森の中でままごと遊びをする。いつもはお団子がうまく作れず、「先生作って」と言うことが多いが、雨で土が湿っていて作りやすいため上手に作り「あんころもち どうぞ」と保育士に渡してくれる。カップに土を入れてひっくり返し、型抜きもうまく出来ていた。



上手に出来るよ!

次に、水たまりの水を汲んできて、穴の中に流し入れる。水の感触に「キャー！」と歓声を上げながらも、次々泥んこの中に入っていき、泥をすくって皿に入れ、「先生どうぞ」「カレーライスだよ」と持ってきてくれる。お尻がぬれるのも気にせず、泥の中に座り込んで遊びながら、さっきまでとは違うドロドロした感触を楽しんでいるようだった。



カレーできたよ

### <考察>

雨の中の泥んこ遊び、顔にかかる雨の冷たさに歓声を上げたり、くもの巣にかかった水滴に気付いたりするなど、触る・見る・味わう・聞くなどの五感を通しての総合的な活動の中から、雨への関心・面白さ・美しさを感じてくれたことを実感した。その積み重ねが、科学する心に連動する力になると思われる。

## ◎ 雨こんことお絵かき

マジックで画用紙に思い思いに絵を描く。何色も使ってぐるぐると線を描く子もいれば、「お母さん描いた」と上手に顔を描く子もいる。

「じゃあ お花さんのお隣にみんなの絵飾ってあげる？」と言うと「うん！飾ってあげる」と言って飾り出す。「僕ここ」「私このお花のお隣にする」と保育士と一緒に思い思いの場所に絵を掛ける。「お花さんと仲良しやね」と嬉しそうに口々に言う。

そのまま溝の雨水で遊んでいると、「僕の絵泣いとる」と言いにくる子がいた。見に行くと顔の絵の目の部分がにじんで泣いているように見える。

「本当や！」と他の子も自分の絵を見に行き、雨に濡れてにじんだ絵を見て、「僕のこんなになった！」「きれい きれい」「ピチャピチャや」と声を上げる。

降園時まで掛けておいたので、帰り道保護者に自分の絵を嬉しそうに見せる姿が見られた。



ここに 飾る!



きれい  
きれい



### <考察>

にじみ絵作りを通して、雨によって起こる変化に気付き、そこから不思議さや美しさを感じ取ってほしいと思い、この活動に取り組むことにした。和紙やわら半紙等色々な素材を試し教材研究をして、用紙は色がにじみ、また濡れても破れにくい画用紙を使用し、大きさは子どもたちが飽きずに紙一杯に描ける八つ切りを4分の1にし、扱いやすい水性マジックで自由に描けるようにしたことは、成果に結びついたと思われる。

子どもたちは雨に濡れる絵を見て、自分たちの描いた絵がにじみ絵に変化したことに驚いたり、感動したりしていた。また絵に触ることで、濡れていると気付き、濡れることで絵が変化した不思議さも感じているようだった。

これからも子どもたちの遊ぶ様子を見ながら、触る・見る・聴く等五感を働かせる活動を工夫し、自然の美しさや不思議さを体験させながら、子どもたちの感じる心をより豊かにし、「科学する心」につなげていきたいと思う。

## みどころ

2歳の子どもたちに「雨」はどのように見えるのでしょうか。「雨」をどのように感じているのでしょうか。雨の中の散歩は、出かけると聞いただけでも「ワクワク」していたことでしょうか。出かけてみて、いろいろなことを感じた子どもたち。その思いをしっかりと受け止める保育者がいることで、子どもたちは保育者に発信し、保育者は子どもたちの感じたことや経験したことをつかみ、共感して言葉で返すことができます。

泥んこ遊びやお絵かき遊びも、「こんなにいつもと違う」と気づき「どうしてかな」「こうしてみよう！」と、心も体も動いています。